

こうざ えもんつうしん 平成26年5月11日
講左衛門通信 第21号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『今日は、身延町で発見された石碑の話をしようかのう。平成16年9月、下部町根子という所で、道路の拡張工事をしていたんじゃ。崩落している土砂を取り除く作業をしていると大きな石が出てきたんじゃ。大きな石には、「御内八海道供養碑」と書かれてあったんじゃよ。幸いなことに、石碑の文字は劣化することなく、読むことができたんじゃ。』

『「御内八海道供養碑」と書かれていたということは、忍野八海と関係があるでまっすん。講左衛門さん、その石碑には、何が書かれていたでまっすん。』

『さすが、クニマッスン勉強しおるのう・・・しかし、石碑が発見された当時、身延町の方々は、この石碑が忍野八海と関係があるなど想像もしていなかったんじゃよ。石碑上部右肩には、「大磯小磯村講中本願」と書かれておって、村人の名前が刻まれてあったんじゃ。先祖が残したこの石碑が、どのような理由で建立されたのか？大磯小磯村の方々は、「御内八海道供養碑奉賛会」という会を立ち上げたんじゃよ。東円寺に連絡があったのは、石碑が発見されてから、6年後の平成22年のことじゃ。会の会長さんから電話があったんじゃ。』

『6年もの間、ずっと調査したり研究していたでまっすん？すごいことだでまっすん。』

『そうなんじゃ。御内八海道供養碑奉賛会の会長さんは、当時80代後半、石碑に書かれた名前には、覚えのある方々の名前があったんじゃ。先祖が残した大切な石碑に対する思いは深く、調査を進めていくと、富士講と関係がある事を知り、富士吉田市歴史民俗博物館を訪れ、そこで忍野八海と関係が深いことを知ったそうじゃ。この話を聞いた東円寺の住職は、石碑にある名前を調べたんじゃよ。東円寺に残された、大我講の名簿に記載された名前の方々と一致したんじゃ。そのことを、会長さんにお話しすると驚かれ、平成22年3月13日には、御内八海道供養碑奉賛会の会員23名が東円寺にお詣りくださったんじゃ。』

『テレビドラマのような話でまっすん。鳥肌が立ったでまっすん。』

『東円寺に残されている大我講中名簿をみてもらったんじゃ。そうすると、名簿に記載された方と親戚関係の人もおって、それはそれは感激しておられたんじゃ。そこで、貴重な話を聞くことができたんじゃが、その話は次回にするとしようかのう。』



『講左衛門さん、昔の話はしっかり語り継がなくては、忘れられてしまうものでまっすん。おいら、しっかり伝えるでまっすん。次回も楽しみにしているでまっすん。』

クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん..

ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定